

監修＝相馬市健康対策
 専門部会委員、相馬中
 央病院
 坪倉正治
作成＝放射能対策室



放射線に関する Q & A

放射線は目に見えません。しかし正しく認識し、対処することで過剰な心配や、無用な被ばくを避けることができます。放射能対策室では定期的に、この Q & A を連載していきます。

Q これから雪の降る季節となりますが、雪に触れることにより被ばくすることはあるのでしょうか。

A 雪は空気中の微粒子を中心として、まわりの水分が結晶化することで作られます。放射性物質のついたちりやホコリも微粒子の一つですので、雪の中に放射性物質が含まれることも理論的には考えられます。

しかしながら、現在では空気中の放射性物質はあったとしてもごく微量しかありません。飛散した放射性物質のほとんどが地面に落下し、土と結合しているためです。実際に原子力規制委員会が県内で毎月実施している空気中の浮遊じん調査（空気中の放射性物質の量を計測する検査）の結果では、平成 25 年頃から検査のほとんどが不検出※、本市も平成 25 年 8 月の検査以外で不検出※です。

この結果からも、雪に含まれる放射性物質はほとんど無く、雪が体につくことによる被ばくや、雪遊びによって起こる被ばくを気にかける必要はありません。

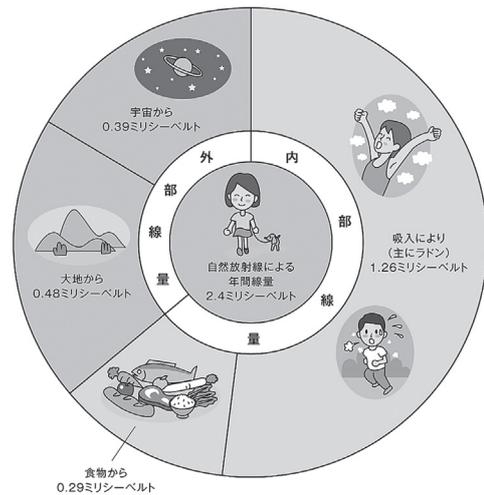
平成 25 年 8 月に本市で検出された放射性物質の量はセシウム 134 が 0.00224 ベクレル / 1 m³、セシウム 137 が 0.00436 ベクレル / 1 m³ でしたが、この空気を例え 1 年間、ずっと外で吸い続けたとしても、受ける内部被ばく量は約 2 マイクロシーベルト（空気中にある自然の放射性物質から受ける内部被ばく量（年間で 1.26 ミリシー

ベルト（世界平均）の約 1000 分の 1）であり、健康への影響を考えるレベルにありません。

また、雪が積もれば地面が雪（水）で遮蔽されるため、空間線量はさらに低くなります。福島第一原発から飛散した放射性物質が空気中からすべて無くなったとは言い切れませんが、ほぼゼロと考えて健康上に問題はありません。

県内にはホームページに空間線量を公表しているスキー場もあります。被ばくを気にせずにスキーなどのウィンタースポーツを楽しんでほしいと思います。

※不検出：放射性物質濃度が測定機器で検出できる最低（限界）値未満のこと
 浮遊じん調査の検出最低（限界）値は 0.0002 ～ 0.0004 ベクレル / 1 m³



図＝自然の放射線から受ける線量（1人当たりの年間線量（世界平均））

出典：▽原子力規制委員会ホームページ「放射線モニタリング情報」
 ▽原子力・エネルギー図面集 2013

●問い合わせ先 放射能対策室 ☎ 37-2270

自家消費野菜などの放射線物質測定結果

●11月分

▽測定件数 測定件数 88件

(内訳・野菜 21件、果実

58件、魚 4件、山菜・キノ

コ類 2件、その他 3件)

▽基準値を超えた食品 0件

●相馬市で出荷制限などを受けている食品(12月6日現在)

▽くさそてつ(ごみ)▽た

けのこ▽ふきのとう(野生)

▽ぜんまい▽たらの芽(野生)

▽原木しいたけ(露地)▽原

木なめこ(露地)▽野生きの

こ▽こしあぶら▽うど(野生)

▽牛(県の定める出荷・検査

方針に基づくものを除く)

※最新の情報は、福島復興ス

テーションホームページ内

の「農林水産物の緊急時環

境放射線モニタリング結果

【詳細】でご確認ください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/non-kekahml>

◎これまでの食品の検査結果

(相馬市ホームページ)

<http://www.city.soma.fukushima.jp/housyasen/index.html>

●問い合わせ先 放射能対策

室 (☎ 37 2270)